

令和元年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 白銀 中学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和元年6～7月に、2年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思えます。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動と一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立への取組の充実をお願いします。

※本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部分です。

1. 調査の目的

- (1) 子どもの体力等の状況に鑑み、国が全国的な子どもの体力の状況把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各公立学校が全国的な状況との関係において自らの子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各公立学校が各児童の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

2. 調査内容

(1) 実技に関する調査

※ [8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン・持久走、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ

※持久走か20mシャトルランのどちらかを選択するため8種目となる

(2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

※本校の2年生は、単学級ですので、個人が特定されるような公表の方法については、配慮しています。

3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市の実技調査の結果

<男子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ハンドボール投げ	体力合計点
全国	28.65	26.96	43.50	51.91	398.98	83.53	8.02	195.03	20.40	41.69
本市	29.63	28.64	46.77	53.12	401.16	84.64	7.87	200.12	21.00	44.54

<女子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ハンドボール投げ	体力合計点
全国	23.79	23.69	46.32	47.28	289.82	58.31	8.81	169.90	12.96	50.22
本市	24.35	24.38	48.94	47.85	286.99	58.41	8.73	174.72	12.95	52.11

4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析

運動やスポーツに関する意識について、「することが好きですか」、「大切なものですか」、「する時間を持ちたいと思いますか」という質問に対し、肯定的な回答をした割合がいずれも全国・北九州市のポイントを下回っている。また、部活動及びスポーツクラブへの所属について、「所属していない」生徒が男女ともに30%以上と、全国の5倍以上となっている。

次に、生活習慣について、睡眠時間のうち「10時間以上」の割合が全国・北九州市の約10倍ある。また、「テレビやゲーム・スマートフォン等の時間(5時間以上)」の割合は2倍以上と非常に高い。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で)

保健体育においては、少人数・チームティーチングでの授業を行い、「運動が嫌い・運動が苦手」な生徒への支援を継続して行う。その中で、生徒同士で活動する時間を設けて、生徒同士で教え合い、仲間と触れ合う楽しさを感じられるようにする。また、「めあて」や「個人目標」の設定を細かく実施し、生徒の苦手意識を改善していく。

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

小規模校のため、「自己の体力を伸ばそう」という意識や「上手な仲間を真似して上達しよう」といった意識が育ちにくい。そこで、年に数回、1～3年生による「合同体育」を実施し、意識の向上を図っている。今後は、教え合う時間を積極的に設定し、運動のもつ楽しさを味わわせたい。そして、体力と健康の結びつきを理解させ、運動することの大切さを伝えていく。